

## 目標達成計画

作成日: 平成 28 年 4 月 25 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議では、プロジェクターを使用し入居者の生活場面や行事内容を分かりやすくお伝えするよう努めています。出席者より地域行事の予定を得るなど、意見や提案はサービスに反映できるよう努めています。今後は、さらに充実した会議となるよう、認知症介護に関する情報の発信・交流できる場にしたと思います。	『認知症高齢者介護に関する情報などを発信し、情報の交換をする事で、運営推進会議の場をより活かせるよう取り組みます。』	世間の動向や大阪大学との共同研究の内容や事例を交えて、認知症ケアの取り組みやケアの実践方法を発信し、認知症ケアをわかりやすくお伝えしていきます、意見交換の場を更に充実できるように取り組みます。	4ヶ月
2	40	食事は併設の厨房から毎食届けられていました。ごはんや汁物は、グループホームで調理しています。週1回のおやつ会、月1回のランチ会では、献立作成から買い物・調理・食事・片付けを入居者と職員が一緒に楽しみながら行ってきました。今後は、食事作りをグループホームで行うことにより、いきがい作りや生きる喜びを感じられる機会となり、意欲を引き出せるよう取り組みます。	『入居者が職員と共に食事に係るさまざまな工程を行い、役割を持ってできることをしていただくことに着目し、楽しみながら行うことにより「生きる力」へと繋げ、入居者が「自ら取り組む認知症ケア」を実践します。』	・併設の厨房から独立し、食材一式を近隣の商店、朝市、宅配業者、近隣スーパーより購入します。 ・献立は、食材宅配業者の献立を基本とし、主食・お汁もの・漬物・デザートについては、グループホームで季節のものや嗜好、慣れ親しんだ材料を選べるようにします。 ・台所は、どの入居者にもお使いいただける設備を整えていますので、調理に携わっていただきやりがいや生きがい作りに取り組みます。 ・調理工程では会話や表情、入居者と職員が一緒に作業を行なう事で、入居者が何を感じ、何を思い、何が楽しく、何を望んでいるのかを職員が作業を通して感じ取り、安心して暮らせるケアを導き出します。出来る事、出来ない事、できそうな事を見つけ、入居者が楽しみながら行うことにより「生きる力」へと繋げられるよう、入居者が「自ら取り組む認知症ケア」を実践します。	6ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。